



地域おこし協力隊  
上條 由紀子  
(前住所：東京都三鷹市)

三好市へ移住しての  
印象を聞かせてください

**広** い！それと、思ったより雨が多いです。お茶やお酒の産地になる所以。昨年度は、祖谷平家まつりと武家屋敷JAZZフェスティバルのお手伝いの中で、しっかりとご挨拶ができ兄弟でなくても小さな子の面倒を見る子供たちや、うちの子よその子の区別無く叱る大人たちの姿に感動。地域ぐるみで育児や教育をする見直されるべき「良き日本」です。登下校の生徒さんが、「おはようございます」「こんにちは」と、声をかけてくれる度、とても清々しく、うれしくなります。

笑顔で挨拶をされたら、旅行者の方なども、きつととても心温まるのではないのでしょうか。

これまでの活動や  
今後の見通し  
感じたことを教えてください

**家** 庭菜園付きの活動拠点探しに四苦八苦しましたが、そこでの出会いが、転居だけでなく予測しなかった展開に繋がりました。まず、念願の「その郷」体験旅行受け入れは、おかげさまで確かな手ごたえ。みんなで畑や山で働き、食べること、風呂を沸かすこと、眠ること、ジャンクフードを片手に、エア



## 特集 地域おこし活動1年の軌跡

**地域おこし協力隊とは**  
地方自治体が都市住民を受け入れ委嘱。地域おこし活動の支援や農林漁業の応援、住民の生活支援など「地域協力活動」に従事してもらい、あわせてその定住・定着を図りながら、地域活性化に貢献することを目的としています。期間は概ね1年以上最長3年です。平成23年度末現在、全国147の地方自治体で413名の地域おこし協力隊員が活動しています。  
(総務省資料より)

三好市でも昨年度より総務省のこの制度を活用し、昨年7月より都市部から移住してきた6名を地域おこし協力隊(嘱託職員)として任命しました。隊員たちはそれまでの仕事を辞め、三好市へ移住し、不安や悩みもあるなかで地域のために何ができるのかを模索しながら地域おこし活動をしています。隊員は中心市街地活性化や地元産品の販売、地域のお手伝いなどに携わりながら、任期終了後の定住に向けて活動中です。今月の市報では委嘱後1年が経過した隊員たちの声をお伝えします。

**お問い合わせ先**  
三好市地域振興課(☎72-7649)

が田舎の魅力です。

とはいえ、食とエネルギーについて考え直そうと、自然農法の菜園を活動の中心に、民宿兼「二人一人の居場所」を作りたくて着任したのに、今はそれ以外が活動の中心になってしまっています。せめて、英語保育では、子供一人一人の気持ちを大切にしよう心がけています。最後に、協力隊の仕事を通し「仲間や家族が居なくては何かできない」と痛感してあります。渡仏以来10年以上ひとり暮らしで、学費や生活費を稼ぐのも畑仕事も、ほぼ手作業の家事も、全部一人でやってきたのですが、田舎暮らしは、広い土地で、田舎や家事や仕事に終われる日々を、協力し合う仲間や家族がいて、初めてうまく回っていくのです。

また先日、講演準備に忙しく、責任を感じて不安な時期に、千葉から母が遊びに来ました。それだけでものすごく安心して「家族の良さ」を見直すことに。出産育児をするなら、子供が小さいうちは田舎で育てたいですね。目の前の問題に取り組みだけでなく、日々は終わってしまいがちですが、次世代を見据えた施策が必要だと思います。

コンの効いた部屋で机やゲームにかじりついていたのでは「生きていく」とはどういうことかを肌を感じることは絶対にできません。心と体が分裂して扱われがちな現代、一番大切なことを伝えられる活動が田舎体験だと、私は確信しています。また、拠点探しが結んだご縁から、佐藤初女さん講演会『心と体をむすぶ食』『いのち』のメッセージを企画。開催は9月22日(土)ですが、企画進行は人生初のうえ、講師の初女さんは、実は世界的に有名でなかなか来てもらえない方で、責任の重さに不安と戦う日々です。講演第二部のおむすび実習には、有機米に無農薬の梅干と、三好のこだわり食材を準備。こんなステキなお仕事をさせていただけると縁に、またご協力してください。皆さんに心から感謝です。

一方、外国人観光客誘致のお手伝い、フランス語指導や英語保育など、語学面の活動もしています。現在の住まいである古民家にも、先日フランスから家族連れが遊びに来て、畑仕事を手伝ってくれたのですが、たまに草取りのコツを教えてくださいました。こんな「素朴で自然な交流」

**三好市へ移住しての印象を聞かせてください**

**協力** 力隊としてまる一年。東京で映像制作に携わり、ほとんど帰省もできなかった自分が、病床の祖父最期の日に立ち会うこともでき、故郷で生活できることのありがたさを改めて思うとともに、受け入れてくださったことに深く感謝している次第です。

**これまでの活動や今後の見通し**  
**感じたことを教えてください**

**よ** て、私の活動は、地域の様々な活動に協力をさせて頂くことが中心でした。地域の活動団体との協働、舞台制作支援、協力隊員や市役所関係各課の映像制作とスチル撮影、映画「祖谷物語」の制作支援、講演活動など、そのために旧6か町村を駆け回ること、三好市の様々な魅力について認識を新たにしています。

三野町。充実した施設を持つふれあい公園。地域の団体が一から立ち上げた三好長慶武者行列。田園風景の美しさ、とれたての野菜、果物のおいしさ。井川町。県内唯一の腕山スキー場。棚田百選、下影の棚

**三好市へ移住しての印象を聞かせてください**

**私** が移住し、感じた三好の良いとところを、まず箇条書きで上げさせていただきます  
 ◎ 利活用できる空き家が多いこと  
 ◎ 都会人が喜ぶ景色・食べ物・ロケーションに恵まれていること  
 ◎ 地元愛を持っている方が多いこと  
 ◎ 旧6か町村それぞれに違う個性があること  
 ◎ ラフティング・スキートの印象が強いが、四季で楽しめるイベントや場所があること  
 などなど、三好市にいると凄く懐古的な気分になり、昔小さかった頃におばあちゃんの家で

遊んでいたときのような感覚を覚え、とても愛着が持てる町だと感じました。  
 そのような環境と、祖谷のわずら橋や落合集落、古民家などの中高年者向けの資源や、ラフティングやスキーなどの若者も楽しめる文化があり、このマッチが三好に来たくなる理由だと私は思います。この多様なイメージに付随するのは、やはりその土地に住む方たちの優しさであったり、おもてなしであったり、サービスを重んじる傾向が観光地にはあり、その人がいてこそその観光地に成り立っているのだと私はこの三好市に感じます。  
 また、妻の祖母は井川に住んでおり農業をしています。休日には畑でとれた野菜をいただく



地域おこし協力隊  
**藪下 敬太**  
 (前住所：京都府京田辺市)

田。巨大な球体ゾープ。新田神社のお祭りの意匠と迫力ある神輿。伊予街道と井内街道沿いの、様々な歴史的遺構。

池田町。阿波刻みの繁栄を証す街並み。たばこおどり、だんじりなど、保存会の活動。林芙美子と司馬遼太郎、文豪の宿「旧政海旅館」。徒歩で回遊できる寺社と歴史遺構。

山城町。大歩危溪谷のラフティング。妖怪をモチーフにした活動や市外でのPR活動における地域の絆。3か月に渡る茂泉隊員の茶業研修撮影で知った、人々の心の暖かさ。

東西祖谷山。祖谷のわずら橋や落合集落など有形の文化財と、神代おどりに代表される無形の文化財。それを保存し、活用する人々の活動。数多く遺さ



また、自らの前職を活かし、サンライズ地下で開催された酒祭り前夜祭で、自前の舞台照明一式を用意して以来、続けて関わることになった地域の児童生徒の演奏会、山城夏祭りなど、地域の舞台制作を地域の方々とともに、造り上げていく取組も行っております。  
 一方、何十年も朝早くから清

き、私の子供にそのとれたて野菜を食べさせたりする風景、環境が凄く幸せで、京都にいた頃には味わえなかった楽しさを毎日味わわせていただいております。「普通のこと」が実はとても素敵な町」それが私の1年住んで感じた三好のイメージです。

私は今現在、町おこしのメインテーマに挙げているのは「若者文化の活性化」です。自身がまだ23歳という若者でもあり、三好市の人口比でいえば少ない年代ではありますが、若者がこれまでの文化を引き継いでいかなければ、10年、20年後の三好市は見えなくなってしまうと思います。何より自分が楽しい事を作り上げて、その文化に多くの人を巻き込んでいかなければ継続できないことだと思います。  
 私はこれまでに、池田のサンライズで「お酒が飲めない人でも(未成年でも)楽しめる酒祭り前夜祭・huge underground」という音楽イベントを同協力隊の下川さんと企画したり、同協力隊の吉田さんが作り上げたイベントスペースでカフェライブ



地域おこし協力隊  
**下川 徹**  
 (前住所：東京都中野区、三好市出身)

れた伝説や歴史遺構。壮大な剣山と龍宮崖、奥祖谷二重かずら橋の絶景。伝統芸能やJAZZコンサート、創作劇など、年齢を問わず楽しめる平家祭り。まさに「祖谷山」そのものが物語となるような懐の広さ。

これら三好市の魅力のほんの一部を、自身のブログ「祖谷の詩」で紹介を続けています。

また、自らの前職を活かし、サンライズ地下で開催された酒祭り前夜祭で、自前の舞台照明一式を用意して以来、続けて関わることになった地域の児童生徒の演奏会、山城夏祭りなど、地域の舞台制作を地域の方々とともに、造り上げていく取組も行っております。  
 一方、何十年も朝早くから清

き、私の子供にそのとれたて野菜を食べさせたりする風景、環境が凄く幸せで、京都にいた頃には味わえなかった楽しさを毎日味わわせていただいております。「普通のこと」が実はとても素敵な町」それが私の1年住んで感じた三好のイメージです。

私は今現在、町おこしのメインテーマに挙げているのは「若者文化の活性化」です。自身がまだ23歳という若者でもあり、三好市の人口比でいえば少ない年代ではありますが、若者がこれまでの文化を引き継いでいかなければ、10年、20年後の三好市は見えなくなってしまうと思います。何より自分が楽しい事を作り上げて、その文化に多くの人を巻き込んでいかなければ継続できないことだと思います。  
 私はこれまでに、池田のサンライズで「お酒が飲めない人でも(未成年でも)楽しめる酒祭り前夜祭・huge underground」という音楽イベントを同協力隊の下川さんと企画したり、同協力隊の吉田さんが作り上げたイベントスペースでカフェライブ



イベントや、最近では徳島市の有名イベント団体である「秘響」さんと共同主催で県内外からアーティストを呼び、国の登録有形文化財である百年蔵でアート&ライブイベントを企画させていただきました。私は今、「音楽」という媒体で市内外をとりこんだイベントをしています。  
 若者が外にでていってしまう理由は若者が楽しめる文化が三好には少ないからだと思えます。外に出て行かなくても楽しめる場所を作れたら、大学を卒業してから帰ってくる若者が少しでも楽しめて交流ができる場所が作れたら、と思ひ活動させていたと思います。もちろん若者文化は年代を超え、中高年者の方にも理解していただければいいと思います。いろいろなイベントを作り上げられるよう努力していく所存でございます。

**特集 地域おこし活動1年の軌跡**

**三好市へ移住しての  
印象を聞かせてください**

**私**が三好市に地域おこし協力隊として移住してきて1年があつたという間に過ぎました。すべての季節を三好市で体験して、冬は寒く夏は暑いという盆地の気候を実感しました。しかし、山や川が生活に近いので、春は山菜やたけのこ採集を楽しんだり、夏は川の涼しい空気で癒されたり、季節を通して山の緑の移り変わりに感動したりと、自然の豊かさを享受する得がたい毎日です。

**これまでの活動や  
今後の見通し**

**感じたことを教えてください**

**現在**、私は活動の拠点を池田町に置き、ふたつの活動に注力しております。

ひとつは「うだつの残る町並みの空き家の活用」です。全国的な問題になっていますが、三好市も高齢化が進み、空き家が増えてきています。池田町のうだつの残る町並みでも空き家は徐々に増え、場所によっては更地になってしまい、町並みの存続の危機となっています。そこで、昨年の11月からうだ



地域おこし協力隊  
**吉田 絵美**  
(前住所：東京都文京区)

つの残る町並みにある空き家だった旧商家を借り、その佇まいを活かしてイベントスペースとしてオープンしました。また、その近くの休館していた「まちかど資料館」も、定期的に展示を行うようにしています。ふたつの建物どちらも旧たばこ商家で三好市の伝統的背景があります。そのため、現在も三好市に残る生活文化などの伝統を次世代に伝えて活用する場として、イベント企画などを考えています。

また、今後も徐々に周辺に空き家の情報を収集し、町並みを観光地化していけるような素地作りを目標としています。ふたつめの活動が、「町中人が歩く仕組み作り」です。前



ぜひ問い合わせください。また、「うだつマルシェ」や「いけだ阿波おどり」などのイベント時に合わせて、池田町内の宮田醤油さんや三芳菊さんと共同したマチ歩きツアーを行って、既存の美味しい飲食店の紹介など、町の魅力を伝えることも行っています。

今後もふたつの活動に、より注力し、三好市に来てみたい、そして住んでみたいと思ってもらえるような情報発信をしていければと思います。そして、地域の住民の方も住んでいて楽しい町にしていければと夢を抱いております。

**三好市へ移住しての  
印象を聞かせてください**

**協**力隊に赴任してから1年が経過いたしました。私はこちらに親戚があつたことから、それまでも年1回ほど三好市を訪ねていましたが、やはり移住すると見えてくるものも全く違いました。

まず、移住する前にはそれほど困らなかつたショッピングを楽しむという行為は、ここでは車を使って一日がかりで行わなければなりません。ガソリン代などの交通費もかかります。

しかし毎日の生活はどうでしょうか、毎朝起きて窓を開けると山の清々しい空気が入ってきます。カルキ臭くないおいしい水が山を流れています。それ

**これまでの活動や  
今後の見通し**

らは決してお金で買うことができます。改めて素晴らしい環境の中で暮らしているのだと感じました。

**協**力隊員として赴任してから1年が瞬く間に過ぎました。私自身、今までの人生ではとても出会わなかつたような方たちと、様々な経験がありました。

私は最初、前職の経験からJR阿波池田駅の要請に協力しました。JR四国が行っている様々なイベントツアーの列車に添乗員として乗務し、JR社員の方と一緒にツアー旅行へ出か



けるお客様のおもてなしをさせていただきました。

あるときはカラオケの司会、またあるときは妖怪の着ぐるみを着ておもてなし、など大変ですが楽しい添乗業務を行っているうちにいろいろな方とのつながりができました。

昨年冬には、耕作放棄地の茶畑を見学し「このままではまずい」と感じ、自分にできることはないか考えました。しかし全くお茶のことを知らなかつた私は、山城でお茶を作っている方々の元へ行き、一からお茶作りについて研修させていただきました。

まだ雪残る2月末から、肥料の散布や剪定などお茶作りに欠かせない作業に始まり、5月には昼夜を問わないお茶摘み作

業。大変な労働でお茶作りの苦勞を肌身で学ばせていただきました。

三好市で栽培されているお茶は「歩危」と呼ばれるほど足場が不安定な急峻な山の上にあります。しかしながら吉野川から流れ込む霧が味わい深いお茶を作っているのです。そうした素晴らしい特産品をもっと多くの人に知ってもらうために自分なりにできること…それはすぐ近くにありました。今までご縁があつたJRの方へ相談し、5月末「大歩危トロッコ」号の車内と大歩危駅前の会場で新茶の試飲販売を企画させていただきました。その結果、大勢の乗客の方々に新茶を味わっていただきました。

こうしたことができたのも、JRをはじめ今までご縁があつた方が協力してくれたことに他なりません。地域おこしは自らに力がなければできないが、一人では決して成しえない仕事なのだなどつくづく実感いたしました。

現在私は新たなお話をいくつかいただき奮闘しております。自然・歴史あふれるこの郷で「来て見て知ってよかつた」と思う人が一人でも増えればと頑張っていく所存です。



地域おこし協力隊  
**茂泉 賢弥**  
(前住所：静岡県御殿場市)

## 三好市へ移住しての 印象を聞かせてください

**池** 田近辺にいるかぎりにおいては、大阪に住んでいた時とそう変わったと思いません。

大阪市内の北区(大阪駅近辺)に住んでいたのですが、店の選択は大幅に減りましたが、日常生活には何の問題もありません。電車やバスの代わりに、車を使わなければならぬくらいです。そのため、酒を飲む機会が大幅に減り、自炊の回数がグンと増えました。健康のためには、全然いいことです。

今、西井川に住んでいます。大家さんを初め、周りの人たちが温かくて、何不自由なく快適に過ごしております。自然環境にも恵まれ、自然相手の趣味を満喫しています。

市報にも何度も書きましたので多くは触れませんが、三好市の一番の魅力は山や溪流があり、自然が素晴らしい事だと思います。四季の遷り変わりをこれだけはつきり感じさせてくれたことは自分にとって大変嬉しいことです。それと、仕事より生活を大事にされている方が多いのも印象的です。何か新しい生き方を発見したような気がしています。

ています。大阪時代と違い、ちゃんと地に足が着いた活動並びに生活が送れるような気がします。

## これまでの活動や 今後の見通し 感じたことを教えてください

**活** 動拠点は井川支所なのですが、活動場所は山城および祖谷地区になります。

東祖谷では、祖谷平家まつりの実行委員や雪合戦の審判員をやらせてもらっております。昨年の10月には、祖谷平家まつりの創作劇にも出演させていただきました。地元の方が、東祖谷の「平家落人伝説」を広めるために大変努力されているのに感銘を受け、ぜひとも手伝わして欲しいということを実行委員会に入っています。



入っていたら、昨年一年間やらせてもらい、今年も活動を継続したいと思っています。また、その延長線上で国際雪合戦の審判員もやらせてもらいました。もうひとつの活動は、山城の生活改善グループさんとの出会いから始まりました。その団体は地産にこだわり、地元産の農産物を加工し、商品として販売されています。素晴らしいのは、片手間では無く、プロとしてそれを立派に商売されているということだと思います。昨年からは、



地域おこし協力隊  
**渡邊 聡**  
(前住所：大阪府大阪市)

ひお手伝いさせてほしいという事で、帳票整理から始めさせていただき、商品販売のお手伝いや販売促進のご協力と、いろんな事をさせてもらっています。今年の6月からは、ネット販売も始めました。まだまだ軌道には乗りませんが、グループの方々が、新商品の開発や販促活動に積極的にいられていく姿を見るのは嬉しいものです。三好市内を色々見てきて、移住後の仕事として一番可能性のあるのは「観光」と「地元商品の販売」じゃないかと思っています。これまでの活動の延長線上で、移住後の仕事ができばいいかなと考えております。

## 集落支援員も 地域を巡回して1年



### 集落支援員とは

人口減少や高齢化が深刻な集落を、地域の実情に詳しく、集落対策の推進に関してノウハウ・知見を有した人材が、地方自治体からの委嘱を受け、市町村職員と連携し、集落への「目配り」として集落の巡回、状況把握等を実施し、集落の維持・活性化を図ることを目的に創設された国の制度です。平成23年度現在、全国で605人の専任集落支援員が活動しています。  
(総務省資料より)

◆各地区的集落支援員  
【井川地区担当】三好 崇夫 (078-50001)  
【西祖谷地区担当】中山 守一 (087-2211)  
【池田地区担当】日浦 孝夫 (072-7649)  
【山城地区担当】胡麻 忠義 (086-1150)  
【東祖谷地区担当】小西 文夫 (088-2211)  
【三野地区担当】井添 榮一 (077-2311)

三好市では、平成23年7月からこの制度を活用し、各総合支所および本庁に1名ずつ、計6名を配置し、限界集落の自治会長宅を中心に聞き取り調査を実施、集落点検メモを取りながら各集落の問題や実情把握および各種事業の周知や調査、市民と行政との連絡調整などを行っています。

お問い合わせ先  
三好市地域振興課  
(072-7649)